

砂丘地での栽培に適した高温耐性大玉スイカ新系統の育成

1 背景・目的

本県のスイカ生産は、砂丘地特有の栽培環境で生産されていることに加え、近年の温暖化に伴う高温の影響により、果実が水浸状となるうるみの発生が問題となっている。そこで、系統作出段階から民間種苗会社と連携し、高温耐性を有する新系統を育成する。

2 技術のポイント

- (1) 育成された 27 系統から選抜された「No.9」は、慣行品種の「祭ばやしRG」と比べ、糖度が同等で、果肉硬度が高く、シャリ感があり、食味が良い(写真、図 1、2)。
- (2) 高温耐性試験においても、うるみの発生程度は低く、近年の温暖化や砂丘地での栽培に適した新たな系統として有望である(図 3)。



写真 果実断面
左：No. 9、右：祭ばやしRG

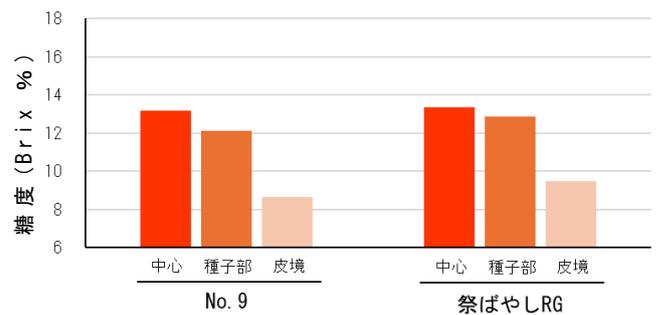


図 1 糖度 (3 カ年平均値)

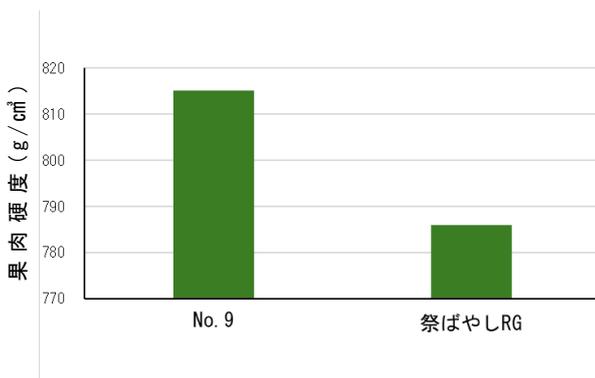


図 2 果肉硬度 (3 カ年平均値)

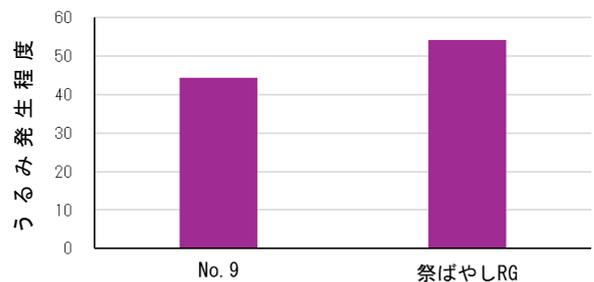


図 3 うるみの発生程度 (高温耐性試験)

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 現時点では当該系統の販売は未定である。
- (2) 果実品質は栽培方法などの諸要因の影響を受けることがある。

問合先：園芸研究部 野菜・花きチーム TEL 076-283-0073
担当者：清水 良雅・松下 太洋